

「生きる」ことを学ぶ場所としての教会

エパタ教会牧師 亀岡 顕

● 新宿矢来町で4年

私がエパタ教会に導かれて早4年が経過しました。11月20日、現会堂4周年感謝礼拝をまもりました。小さな群れの歩みですが、続けることをゆるしてくださっている神の恵みに感謝するのみです。

エパタ教会はこのほど献堂式を行った2012年秋に試作版を作成してそのままになっている「教会案内(リーフレット)」を完成させることにしました。以下、そこに記されている文章を紹介します。

● エパタ教会では

《イエスと「生きる」。教会に「生きる」。社会に「生きる」ことを学んでいます。》

● イエスと「生きる」

ーイエス～キリスト教～教会ー

すべての人を活かそうとする神の愛を実践したのがイエスである、と受けとめるのがキリスト教です。このイエスを信頼し、彼と共に生きようと心指す人たちが集まっているのが教会です。

● 教会に「生きる」

ーエパタ教会に「生きる」ということー

エパタ教会に集う私たちは日曜礼拝を中心として聖書を学び祈りあい話し合うことなどを通して、神によって「生かされている」いのちをどう用いるかについて考え、現代社会を生きるたくさんの人々と関わりあうための、よりよい考え方や働き方を身につけようとしています。

「主イエスが受け入れてくださるから

われら互いに受け入れ合おう。

主に愛されたひとりとして」(讚美歌 21 542②)

● 社会に「生きる」ー教会から日々の生活へー

そして私たちは、与えられているいのちをよりよく用いるための模範としてイエスに倣って、互いに助け合っ、それぞれの生活を「生きる」という課題に取り組んでいます。それは教会のなかで身につけた考え方や働き方を日々の生活で実践するということです。

「神は、その独り子をお与えになったほどに世を愛された。独り子を信じるものが、一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネによる福音書3章16節)。「永遠の命を得る」とは21世紀を生きる私たちにあてはめて解釈すれば人間として『生かされている』いのちを、イエスのように正しく用いるということです。

イエスの生き方を手がかりに「生きる喜び、生きがいは何か」をご一緒に考えてみませんか。エパタ教会はあなたのお越しを心からお待ちしております。

● 教会とは何か

十字架で殺されたイエスが復活して自分たちに現れたと確信した弟子たちはエルサレムで新しい集まりを持ち始めました。それが原始教会です。そこには a. イエスの活動を継承していくことと、 b. 勢力を拡大していくための宣教活動を展開していくという二つの流れがありました。その後、教会が大きくなり組織化されていくにつれ、a. は後退していきました。

今も教会の中にあるこれら二つの流れの内、どちらを重視するかによってその教会の自己理解ー教会は何のためにあり、何をするとところかーが決まります。エパタ教会は「イエスの生き方」を大切にしています。

● 私たちのあかしの生活

「だれでもわたしのもとに来なさい」(マタイによる福

音書 11 章 28 節) との招きに応じてイエスにとらえられている私たちは、聖書によってイエスの生き方の基本を学び、教会の活動や交わりを通して練習問題に取り組んでいます。

日曜日の礼拝から日々の生活へと送り出されていく私たちを待ち構えている現実のいろんなこと(応用問題)にこれまたイエスの支えと励ましを受けてチャレンジしていくのが信仰者のあかしの生活です。私たちは困難な問題やむずかしい人間関係に直面したとき、「イエスだったらどうするだろうか」をイメージして行動していくのです。

● 現代の教会に求められていること

連日のように人の命を軽(無)視する事件が発生して

います。自分の欲望をコントロールして他の人を尊重することのできない人たちが増えてきている証拠です。

このような状況のなかで互いに相手のことを思いやる力を養う場所としての教会の役割はますます重要になってきていると思います。

私たちは教会をいろんな人たちと共に生きていく力を養成するトレーニングスクールと考えています。もちろんその教師はイエスです。エパタ教会ではイエスが命をかけて人々に伝えようとした「互いに相手を大切に、互いに仕え合う」ことを自らの生き方をもってまわりの人たちにあかししていく課題に取り組んでいます。

南板橋伝道所との合同修養会報告

田島 治(南板橋伝道所)

11月3日(木・文化の日)の午後1時30分より4時まで、エパタ教会と南板橋伝道所との第2回合同修養会が、「これからの教会を考える」をテーマに、エパタ教会から4名、南板橋伝道所から5名の参加者を得て、南板橋伝道所で開かれました。

亀岡牧師は発題「これからの教会を考える」で、キリスト教とはイエスのおしえを伝える宗教ではなく、イエスをキリストと信じる宗教であること、信徒力の向上とそのための教会相互の協力が大切であることを話されました。秀島牧師からは「教会の資産」と題して、資産には数字に換算できるものとできないもの、

形のあるものとないものがあり、数字に換算できない無形資産(人材、教会形成、向上心・貢献心、帰属意識など、いわばソフトな資産)の活用こそが重要であることを示されました。また、資産とは放置しておくものではなく、活用すべきものであることが示されました。

話し合いでは、「教会の将来が予測できない」との意見も出されましたが、「祈られ、支えられていると感ずることが、教会員の向上心・貢献心につながる」との相田典子さんのお話に勇気づけられました。また、信徒力の向上のためには、信徒のタレントを生かした教会形成が大

切であり、教会運営を牧師任せにしないことの大切さを確認することができました。全体を通じて、教会には、礼拝に出席する人々だけでなく、教会を取り囲む人々(秀島牧師の言葉によれば「ステークホルダー(利害関係者)」)がおり、その人々に仕えるとともに、その人々から力を受けることが教会の継続・成長につながっていくものであることを感じさせられました。

最後に、2017年4月30日(日)に昨年に引き続いて講壇交換を、11月3日に第3回の合同修養会をエパタ教会で実施することを確認して、今回の修養会を終えました。



2016 エパタ教会のクリスマス

クリスマスの夕べ

12月22日(木) 18:30~

クリスマス礼拝

12月25日(日) 11:00~

どなたでも、ご参加ください。